

普及活動情勢報告（平成31年4月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

北幡地域で営農が継続できる仕組みづくりに向けて ～大正・十和地域営農連絡会の開催～



協議する関係職員

3月25日、町役場十和振興局で大正・十和地域営農連絡会を開催しJAや町役場等の関係機関18名が参加しました。

普及所は、H30年度に作成した園芸野菜の産地ビジョンについての概要を説明し、今後の取組の進め方などについて関係機関と共有しました。H31年度は、営農モデルの作成やナバナのセル苗移植栽培の推進等の活動に取り組む予定です。関係機関からは「シシトウだけでなく、オクラ等の品目についてもモデルを作成してみてもどうか？」等の意見がありました。

今後も、関係機関と連携し、地域で営農が継続できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

31年産米の取組に向けて ～JA高知県四万十エコ栽培米生産部会栽培検討会の開催～



土壌分析結果等を報告する普及指導員

3月28日、JA高知県四万十営農経済センターで、JA高知県四万十エコ栽培米生産部会の栽培検討会を開催し、生産者やJAの関係職員など19名が参加しました。

普及所は、土壌分析結果や、販売促進活動でのアンケート調査結果について情報提供しました。JAは、エコ栽培米生産部会の年間スケジュールの確認や、農薬、肥料の使用基準を説明しました。

生産者からは、土壌の改善方法や、土づくりの効果などに関する質問がありました。

普及所は、今年度も関係機関と連携して、米の品質向上や安定生産、ブランド化に向けた取組を支援していきます。

手摘み茶産地の維持に向けて ～JA高知県十和支所茶業部会総会の開催～



講演する茶業試験場研究員

4月10日、JA高知県十和支所で、JA高知県十和支所茶業部会の総会が開催され、生産者やJAの関係職員など50名が参加しました。

総会では、今年が一番茶の受入開始日等が検討されました。また、茶業試験場の澤田主任研究員から「小型乗用管理機の利用による茶の栽培管理」及び「茶商が語る十和茶の評価」等についての講演を行いました。普及所は、生産者に産地を維持していくための問題解決に取り組むよう促しました。

普及所は、今後も関係機関と連携して、求められる産地の維持に向けた取り組みを続けていきます。

スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの開始に向けて ～コンソーシアムの開催～



協議を行う実証グループ員ら

4月19日、普及所会議室で、第1回四万十町水田作スマート農業実証コンソーシアムが開催され、実証農業者と共同実証機関の担当者など16名が参加しました。

普及所は、実証事業の進行管理役として、実証課題設計書を基に自動運転トラクターや、直進アシスト機能付き田植機、ドローン等の実証概要について説明し、農研機構への提出データや、共同実証機関ごとの予算額、今後のスケジュールの確認などを行いました。

今後は、実証グループ員や農研機構の専門P0等と連携して、中山間地水田作のスマート農業技術体系の実証に取り組んでいきます。

まだまだ現役、地域の食文化を伝えていきます
～高南地区農漁村女性グループ研究会総会の開催～



活動内容を協議するグループ員

4月11日、四万十町東又基幹集落センターで高南地区農漁村女性グループ研究会総会が開催され、グループ員など12名が参加しました。

本研究会は近年、地域農産物を活用した伝承料理や、味噌加工などの食文化の伝承、クラインガルデン四万十の利用者との交流活動などに取り組んできました。今年度は、高知城歴史博物館が主催する日曜市料理教室での食文化の伝承や、先進事例の視察研修による自己研さんなどに取り組む活動計画を立てました。

普及所は今後も、若い世代への料理の伝承や交流活動など研究会活動を支援していきます。